

MT-01

2005年 / 市販車

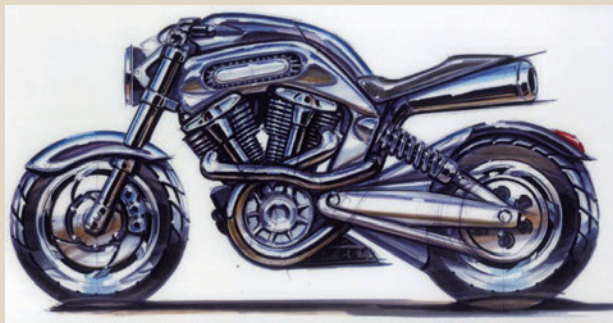
1999年の東京モーターショーに展示されたコンセプトモデル「MT-01 鼓動」はエンジンの吸排気の要素を象徴的にデザインされたロードスポーツモデルで、大排気量エンジンの発する鼓動によって、ライダーとマシンの心理的一体感を演出している。

それを忠実に再現することを目指し、ロードスター・ウォーリアの1,670cc 空冷45度OHV4バルブV型2気筒をベースに、構成パーツが軽量化されたエンジンユニットを、専用設計のCFアルミダイキャストフレームに搭載し、外装パーツは勿論、吸排気系から灯火器類、足回りのパーツに至るまで新設計された。

このモデルに端を発し、ヨーロッパではBT1100(2001)、MT-03(2003)という同じコンセプトのモデルが開発された。

その後、現在のヤマハの代表的な「MT シリーズ」につながるに MT-09が2014年に発売され、MT-01の持つ独自視点のDNAが引き継がれることとなる。

1999 MT-01 コンセプトモデル イメージスケッチ



1999 MT-01 コンセプトモデル



COMMUNICATION
PLAZA